

# 化学農薬の使用を低減するための京野菜の防除体系を確立

**環境負荷の低減と作業負担の軽減を実現し、化学農薬の散布時間を最大35%以上削減する防除体系を確立しました。**

背景

- ・国は、「みどりの食料システム戦略」において、2050年までに、化学農薬の使用量を50%削減（ヒトへの毒性リスクの換算値）することを目指している。
- ・京都府では、化学農薬の使用量を低減した「こだわり栽培」による京のブランド産品を生産。
- ・温暖化の進行で病害虫の分布域の拡大や薬剤抵抗性の発達により、化学農薬による防除効果の低下が懸念されている。

課題等

- ・病害虫に対する薬剤の効果や、病害虫の発生状況を把握し、化学農薬を低減する防除体系を確立することが必要。

## ●化学農薬を低減する防除体系の確立

### ネギバと病

- ・定植前の石灰窒素散布
- ・発生前の予防的薬剤散布
- ・発生状況を基にした効率的なポイント防除



散布時間  
25%以上削減

農薬費  
40%以上削減

### エダマメのハスモンヨトウ、ハダニ

発生状況を確認

▼  
両害虫に効果の高い薬剤で同時防除



散布時間  
20%以上削減

農薬費  
15%以上削減

### ネギのネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウ

- ・効果の高い薬剤選定及び発生状況を確認
- ▼
- ・異なる種類の殺虫剤をローテーション散布



散布時間  
35%以上削減

農薬費  
25%以上削減

### トマトのタバココナジラミ

- ・効果の高い薬剤を選定
- ・黄色粘着フィルムによる捕獲(物理的防除方法)



散布時間  
25%以上削減

農薬費  
20%以上削減

### 研究成果

- ・ネギ・エダマメ・トマトで問題となっている病害虫について、化学農薬の使用を低減する防除体系を確立し、現場で活用可能な防除マニュアルを作成しました。
- ・防除マニュアルの活用により、化学農薬の散布時間を最大で35%以上削減することができます。

### 今後の展開

- ・現場の技術指導に活かし、ブランド産地の拡大とともに環境にやさしい農業を推進します。
- ・今後は、現場で必要に応じて迅速に検索できるデジタルシステムとしての活用を目指します。